

土浦市との合併に向けた協議・検討の場の設置を要望

土浦市との合併に向けた

「協議・検討の場」の設置を求める要望書を提出

令和8年6月16日の第2回定例会において、櫻井繁行議員を提出者とし、議長を除く全議員が賛成者となった議員発議第4号「土浦市とかすみがうら市の合併に向けた協議・検討の場の設置を求める要望書を提出する決議」が、全会一致をもって可決されました。

可決された要望書は、同日かすみがうら市長へ、また翌日の6月17日には、土浦市長並びに土浦市議会議長へ提出されました。

土浦市とかすみがうら市の合併に向けた 協議・検討の場の設置を求める要望書（全文）

急激な少子高齢化を伴った人口減少が社会経済や行政運営に及ぼす影響が懸念される一方で、住民の行政サービスに対するニーズがますます多様化・高度化しており、住民に最も近い存在である市町村は、基礎自治体として、その果たす役割は極めて重要となっている。

こうした中、市町村の行財政基盤の強化を図り、住民ニーズにしっかりと応える行政体制を確立するため、平成11年以来、いわゆる平成の大合併として全国的に市町村合併が進められた。

当地域においても、平成15年5月に「土浦市、霞ヶ浦町、千代田町、新治村」の4市町村による任意合併協議会が設置され、合併方式などを協議したが、同年8月に4市町村の枠組みによる協議会は解散し、その後、土浦市（土浦市と新治村が合併）とかすみがうら市（霞ヶ浦町と千代田町が合併）の2市が誕生し、現在に至っている。

しかしながら、土浦市及びかすみがうら市は、同じ都市計画区域に属する中で、神立駅西口の土地区画整理事業や用途地域の見直しなどを共に推進してきたほか、通勤・通学、買物、医療など、住民の生活圏域も行政境界を超えて一体化が進んでいる。

こうした中、つくばエクスプレス（TX）の県内延伸について、「延伸方面は土浦方面、JR常磐線と接続する駅は土浦駅」として、延伸構想の具体化に向けて検討していくことが決定されたが、幸いにも、土浦市及びかすみがうら市は、TX延伸構想を実現し、その整備効果を県内全域に波及させていく上で鍵となる重要な地域となっている。

厳しい財政状況下にあって両市の将来を展望した時、今この時期を逃さずに、共通する行政課題や一体的なまちづくりを検討することが不可欠であり、合併に向けた協議・検討を抜きに語ることはできないと確信する。

ついては、本県全体の発展を牽引していくような県南地域における新たな中心都市の形成を見据えて、土浦市とかすみがうら市との二市合併に向けた協議・検討の場を設置するよう市議会の総意に基づき強く要望する。

以上、土浦市とかすみがうら市の合併に向けた協議・検討の場の設置を求める要望書を提出する。

議員発議第4号で行われた主な賛成討論

我々が愛するかすみがうら市を持続可能な自治体として未来永劫繁栄させるために、本市固有の資源と土浦市固有の資源をお互いに理解し、補い合いながら、より価値を高め、効果的に活用する時期が来ていると感じている。今こそ課題解決に向け歩みを進めるべき。

何よりも、市民の命と暮らしを守るのが地方自治の本旨である。その立場から広く市民、住民の意見を聞き、慎重に協議することを求めて、今回の要望案に賛成する。

生活圏域も行政境を超えて一体化が進んでおり、発展課題は満載である。両市の発展にとって、土浦市との合併に向けた協議・検討の場の設置を求める要望書は、新しい展望を切り開くものにならないといけない。楽しみが増えてきた。



土浦市への要望書提出の様子

左から

かすみがうら市 宮嶋 謙 前市長
土 浦 市 安藤 真理子 市長
土 浦 市 勝田 達也 議長
かすみがうら市 来栖 文治 議長
(6月17日 土浦市役所)